

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

加古川市立志方西小学校

4月に全国学力・学習状況調査が行われ、6年生を対象に「国語」「算数」の2教科及び「児童質問紙」を実施しました。県や全国との比較もしながら、考察した本校児童の学力・学習状況の傾向と、その対応についてお知らせします。国語について全国平均を上回っていました。一方、算数については、全国平均をやや下回っていました。本調査の結果は、学力の特定の一部をあらわすものではありませんが、よい点はさらに伸ばし、課題となる点は改善していきます。

〈国語〉

〈指導の成果が表れている点〉

1四【知識・技能、選択式】

○出題の趣旨

文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる問題

○出題の概要

〈川村さんの文章〉の特徴の説明として適切なものを選択する。

○分析と結果

全員正答できており、文章全体の特徴を捉える力がついている。

3二【思考・判断・表現、選択式】

○出題の趣旨

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

○出題の概要

寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く。

○分析と結果

ほぼ全員が正答できている。自分の考えを記述させることを授業の中でも重点的に取り組み、クロームブックを活用することで書くことの意欲が高まるなど成果があらわれている。

〈指導の工夫が必要な点〉

2三【知識・技能、記述式】

○出題の趣旨

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題

○出題の概要

相田さんが〈資料3〉の情報をどのように整理しているのかについて説明したものとして適切なものを選択する。

○分析と結果

正答率が高くなく、情報と情報との関係付けの仕方を図などで視覚的に読み取ることに課題があった。

〈まとめ〉

全国平均と比べて比較的理解が深まっていることがわかった。授業の中で、自分の考えを記述させることを大切にしてきた成果が表れている。また、ノートやワークシートだけではなく、クロームブックを活用し多くの意見を書いたり友達の意見を読んだりして、全体で深め合う学習を積み重ねてきた。現6年生は、4年時よりギガスクール構想が始まりクロームブックを活用する機会が増え、その学習の効果があらわれている。

課題としては、特に、情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解するために、単一の情報のみに基づいて考えるのではなく、複数の情報を比較したり関係付けたりして考えることができるように指導することが大切である。

〈算数〉

〈指導の成果が表れている点〉

3 (3) 【知識・技能、短答式】

○出題の趣旨

加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題

○問題の概要

$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3+49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める。

○分析と結果

正答率が良く、無回答率も低く、家庭学習の手引きをはじめ基本の計算力をつけている。

4 (2) 【知識・技能、短答式】

○出題の趣旨

「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる問題

○出題の概要

運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める。

○分析と結果

正答率が高く、基本的な表の見方を理解している。

〈指導の工夫が必要な点〉

2 (3) 【知識・技能、短答式】

○出題の趣旨

正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題

○出題の概要

切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。

○分析と結果

全国平均と比べて下回っている。正三角形の一辺の角度が60度ということは理解できているが、問題の趣旨をイメージできず、解答できていない。

2 (4) 【思考・判断・表現、記述式】

○出題の趣旨

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

○出題の概要

テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く

○分析と結果

全国平均と比べて下回っている。セロテープの幅が三角形の高さになっており、それによって全ての三角形の高さが同じになることを理解できていない。

3 (2) 【思考・判断・表現、記述式】

○出題の趣旨

示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題

○問題の概要

3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方を記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。

○分析と結果

全部並べた長さの求め方を式や言葉で書き、115と回答している児童が全国平均より低くなっている。115と回答できているが、求め方を式や言葉で書けていない児童が不十分な児童が多い。

〈まとめ〉

今回の調査で、特に図形の意味や性質について考える力や思考・判断・表現する力について課題があることがわかった。図形の意味や性質について考える力をつけるために、図形を構成する要素や構成する要素の間の関係に着目して図形を観察したり操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見出したりそれらの操作について、図形の意味や性質を基に考えたりできるようにすることが大切である。

また、思考・判断・表現する力をつけるために、例えば、考えを説明する活動では、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、「どうしてその方法で求めたのか」や「なぜその方法で求められるのか」などと問かけ解法の意味やその理由について考えることで、理解を深めることが大切である。言葉と図(図・関係図・絵)、式の間を正確に捉え理解できるように試行錯誤することで、本質的理解を促したい。

〈児童質問紙〉

【○肯定的回答の割合が高い●割合が低い】 ○番号は質問番号

- 毎日、朝食を食べている。①
- 同じくらいの時刻に寝ている・起きている。②
- 先生はあなたのよいところを認めてくれている。⑤
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。⑪
- 地域行事に参加している。⑳
- 授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器の活用。㉑
- 学習の中で、PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは役に立っている。㉓
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。⑯
- 学校以外での学習時間 平日・休日の学習時間がやや短い。⑰
- 昼休みや放課後、学校が休みの時に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。㉒

- ・落ち着いて生活できている子が多く、宿題忘れも少ない。基本的な生活習慣が身についている児童が多く、家庭の教育力の大きさが伺えます。祖父母とのかかわりも大きく影響していて、地域の行事へも世代を超えて参加できているのもプラスに働いています。
- ・一方で、家で自分で計画を立てて勉強をしたり本を読もうとしたりする子がやや少なく、進んで学ぼうとすることに課題がある。

〈学力のさらなる向上のために〉

- 「できる学力」の向上におけ、計算・漢字をはじめ、基礎基本の徹底とさらなる学習習慣の定着をはかります。家庭学習の手引きを活用し、家庭と連携しながら進めていきます。また、「わかる学力」のさらなる育成に向け、協同的探究学習の中で、思考する力、説明する力を大切にしていきます。
- 学習意欲を高め、自分と他者の考え方を比較したり考えを深めたりする学習を効果的に進めるために、引き続き ICT 機器の活用を進めます。
- 教科書の内容にとどまらず、日常生活のこんな場面で学習したことが生きているということなど、児童が興味をもちそうなことを取りあげながら、学習と生活をつなげていきます。
- 地域とのつながりを持ち、地域の人々とふれあいながら成長できている児童が多くいます。行事や体験活動を通して、目標を持って取り組む経験を重ね、達成感を味わわせることによって挑戦する意欲や自信を育てていきます。